

突然ですが、「いろはカルタ」をご存じですか？むかし昔は、お正月の遊びの定番でした。

この「いろはカルタ」の起源は、京都を中心とする上方（かみがた）で、大阪・尾張（名古屋）を経て江戸に伝わったようです。そのため、上方（京都）いろはカルタ・大阪、尾張（名古屋）いろはカルタ・江戸いろはカルタは、採用されていることわざが異なったり、言い回しが違っていたりします。

江戸いろはカルタは、「犬も歩けば棒に当たる」で始まるので、「犬棒カルタ」とも呼ばれています。ちなみに、上方（京都）いろはカルタの「い」は、「一寸先は闇」で、大阪、尾張（名古屋）いろはカルタでは「一を聞いて十を知る」となっています。



江戸いろはカルタのいの一番に出てくる「犬も歩けば棒に当たる」ですが、校長室においてある『成語林』尾上兼英監修 旺文社によると、（犬も出歩くから棒に打たれるのだという意から）①でしゃばると禍（わざわい）に遭うというたとえ。また、積極的に行動すると損な目に遭うので、じっとしていたほうがいいといういましめ。②動き回れば思いがけない幸運にぶつかるというたとえ。取り柄のない人間でも、積極的に行動すれば意

外な利益を見つかるものだということ。「犬も歩けば棒に会う」ともいう。本来の意味は①だが、今日では、②の意味でつかわれることが多い。とありました。

ここで、まさに「犬も歩けば棒に当たる」の②にピッタリ当てはまる事例を、五月のネットのニュースで見かけました。

それによると、「ノルウェー南西部で朝の散歩中の男性が、木の下で地面が不自然に盛り上がり上がっているのに気づき、棒でつついてみたところ、地中から金色に輝く物体が現れた。この物体をスタヴァンゲル大学が調査した結果、長さ約六センチ、重さ三十三グラム。表面には熟練した職人の手による二匹の蛇のような動物やリボン状の文様が施された黄金の剣のさやで、千五百年前のエリート戦士の持ち物と思われる」。

もう一つの記事。これもまたノルウェーでの出来事。「ノルウェーのブランドブという場所に、校外学習で来ていた六歳の小学生が、畑の近くを歩いていたところ、土の中から何かのぞいているのに気がついた。初めはさびた金属片のように見えたが、特徴的な形をしていたために引率の教師に報告。その後、手を触れずに地元の考古学者に連絡。調査の結果、「スクラマサクス」と呼ばれる片刃の剣で、約千三百年前の武器であることが判明。子どもたちが発見の重要性をすぐに理解し、現場に手を触れずに考古学者に連絡するとい

う適切な対応をとったことを高く評価している」。

六月。「イタリアのローマで、コロッセオの近くにある高校の生徒が、長年語り継がれてきた『体育館の床下には謎の部屋が隠されている。』といううわさを確かめるため、ひそかに探索を続けるうちに、体育館下の地下から、二世紀に建てられた古代ローマ時代の邸宅跡を発見した。」などという記事を見るたびにワクワクしてくるのは、この手の話が大好きな私だけなのでしょうか。

新校舎の竣工はいよいよ七月。教職員全員で新校舎の中に入り、危険個所の点検が始まりました。「屋上の溝には、ふたが必要。」「廊下の家具の角の部分にゴムのカバーが欲しい。」「吹き抜けの部分、物の落下に備えた対策は？」等々、設計・建築の専門家とは違った目線での話が飛び交います。

目白校舎だけではなく、池袋の旧校舎を体験している学年の子どもたちでさえも未知の新校舎。「段差があれば高い方を歩きたがる。」「足場があれば、登りたがる。」「広い廊下があれば走りたがる。」「こんな子どもたちがたくさんいる学校です。子どもたちの道線が大幅に変わる中、子どもたちが禍（わざわい）に遭わぬように、子どもたちの意見を聞きつつ、ルールを決めなおしていく必要があります。うです。（立教小学校校長 田代 正行）